平成17年度 広島大学 2次試験前期日程(数学問題)150分
理・工・医・歯・薬・教育(自然系・理数系)・
総合学科(理科系)・生物生産

問題 1 2 3 4 5

1 行列 I と J が

$$I = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}, \quad J = \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$

であるとき、次の問いに答えよ。

(1) 行列

$$J^2, \quad J^3, \quad J^4$$

は、それぞれ、 I または J の定数倍になることを示せ。

(2) 実数 a と b について、行列

$$aI + bJ$$

が逆行列をもつための必要十分条件を求めよ。

(3) 任意の実数 s, t に対して、行列

$$sI + (1 + st)J + tJ^2 + st^2J^3 + t^2J^4$$

は逆行列をもつことを示せ。

2 正の実数 a, b, c を係数とする3次方程式

$$(*) \quad x^3 + ax^2 + bx + c = 0$$

が、純虚数の解をもつとする。次の問いに答えよ。

(1) $ab - c$ の値を求めよ。

(2) 複素数平面上で方程式 $x^3 + 8 = 0$ の3個の解が表す点を頂点とする三角形を考える。方程式(*)の解が表すすべての点がこの三角形の頂点または辺上にあるとき、 a, b, c の値を求めよ。

- 3 2枚のコインを同時に投げて、三角形 ABC の 1 つの頂点にある駒を、

2枚とも表が出たとき、左回りで隣の頂点に移動し、2枚とも裏が出たとき、右回りで隣の頂点に移動し、表と裏が出たとき、動かさない

という試行を考える．初めに駒を頂点 A に置く．この試行を n 回繰り返したとき、1 回目の試行後の駒の位置を X_1 、2 回目の試行後の駒の位置を X_2 、 $\dots$ 、 n 回目の試行後の駒の位置を X_n とする．次の問いに答えよ．

- (1) この試行を 2 回繰り返したとき、 X_2 が A である確率 P_2 を求めよ．
- (2) この試行を 4 回繰り返したとき、最後の X_4 のみが A である確率 Q_4 を求めよ．
- (3) この試行を n 回 ($n \geq 2$) 繰り返したとき、最後の X_n のみが A である確率 Q_n を求めよ．
- (4) この試行を n 回 ($n \geq 2$) 繰り返したとき、 X_n が A である確率 P_n を求めよ．

- 4 実数全体で定義された関数

$$f(x) = \frac{4x + a}{x^2 + 1}$$

は、 $x = \frac{1}{2}$ で極値をもつ．ただし、 a は定数である．次の問いに答えよ．

- (1) a の値を求めよ．
- (2) 関数 $y = f(x)$ の最大値と最小値を求めよ．
- (3) 定積分 $\int_0^1 f(x) dx$ の値を求めよ．

5 次の問いに答えよ.

(1) 関数 $f(x) = 4x^3 - 3x + \frac{1}{2}$ の増減を調べて極値を求めよ.

(2) 公式

$$\cos 3\theta = 4 \cos^3 \theta - 3 \cos \theta$$

を用いて, $k = \cos \frac{2\pi}{9}$ は方程式 $f(x) = 0$ の解であることを示せ.

(3) $k > \frac{3}{4}$ であることを示せ.

(4) 方程式 $\cos x = x$ の解を α とするとき,

$$\frac{2\pi}{9} < \alpha < \frac{\pi}{4}$$

を示せ. ここで, $3.14 < \pi < 3.15$ を利用してもよい.

解答例

- 1 (1) 行列 J にハミルトン・ケリーの定理を適用すると

$$J^2 + I = O \quad \text{ゆえに} \quad J^2 = -I, \quad J^3 = -J, \quad J^4 = I$$

したがって、題意を満たす.

- (2) $aI + bJ = \begin{pmatrix} a & -b \\ b & a \end{pmatrix}$ が逆行列をもつための必要十分条件は

$$a^2 + b^2 \neq 0 \quad \text{すなわち} \quad a \neq 0 \quad \text{または} \quad b \neq 0$$

- (3) (1) の結果から

$$(*) \quad sI + (1 + st)J + tJ^2 + st^2J^3 + t^2J^4 = (s - t + t^2)I + (1 + st - st^2)J$$

この行列が逆行列をもたないと仮定すると、(2) の結論から

$$s - t + t^2 = 0, \quad 1 + st - st^2 = 0$$

このとき、上の2式から s を消去すると

$$1 + t^2(t - 1)^2 = 0$$

これは、 t が実数であることに反する.

よって、行列 (*) は、逆行列をもつ. ■

- 2 (1) 方程式(*)の純虚数の解を pi とおくと ($p \neq 0$ の実数)

$$(pi)^3 + a(pi)^2 + bpi + c = 0 \quad \text{ゆえに} \quad (-ap^2 + c) + p(-p^2 + b)i = 0$$

$$\text{したがって} \quad -ap^2 + c = 0, \quad -p^2 + b = 0$$

$$\text{上の2式から} p^2 \text{を消去すると} \quad ab - c = 0$$

- (2) (1)の結果から, 方程式(*)は ($a > 0, b > 0$)

$$x^3 + ax^2 + bx + ab = 0 \quad \text{ゆえに} \quad (x+a)(x^2+b) = 0$$

$$\text{これを解いて} \quad x = -a, \pm\sqrt{b}i$$

方程式 $x^3 + 3 = 0$, すなわち, $(x+2)(x^2 - 2x + 4) = 0$ の解は

$$x = -2, 1 \pm \sqrt{3}i$$

これら3点を頂点とする三角形は, 下の図のようになる.

方程式(*)の実数解は負であること, 三角形の虚軸との交点により

$$-a = -2, \quad \sqrt{b} = \frac{2}{\sqrt{3}} \quad \text{ゆえに} \quad a = 2, \quad b = \frac{4}{3}$$

これを(1)の結果に代入することにより $c = \frac{8}{3}$ ■

3 (1) 駒の移動とそのときの確率は

$$A \xrightarrow{\frac{1}{2}} A \xrightarrow{\frac{1}{2}} A, \quad A \xrightarrow{\frac{1}{4}} B \xrightarrow{\frac{1}{4}} A, \quad A \xrightarrow{\frac{1}{4}} C \xrightarrow{\frac{1}{4}} A$$

よって、求める確率 P_2 は

$$P_2 = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2} + \frac{1}{4} \cdot \frac{1}{4} + \frac{1}{4} \cdot \frac{1}{4} = \frac{3}{8}$$

(2) BまたはCの位置あることを $\bar{A}$ とすると、駒の移動とその確率は

$$A \xrightarrow{\frac{1}{2}} \bar{A} \xrightarrow{\frac{3}{4}} \bar{A} \xrightarrow{\frac{3}{4}} \bar{A} \xrightarrow{\frac{1}{4}} A$$

よって、求める確率 Q_4 は

$$Q_4 = \frac{1}{2} \cdot \frac{3}{4} \cdot \frac{3}{4} \cdot \frac{1}{4} = \frac{9}{128}$$

(3) (2)と同様に、駒の移動とその確率は

$$A \xrightarrow{\frac{1}{2}} \bar{A} \xrightarrow{\frac{3}{4}} \dots \xrightarrow{\frac{3}{4}} \bar{A} \xrightarrow{\frac{1}{4}} A$$

$\overbrace{\hspace{1.5cm}}^{n-2 \text{ 個}}$

よって、求める確率 Q_n は

$$Q_n = \frac{1}{2} \left(\frac{3}{4}\right)^{n-2} \frac{1}{4} = \frac{1}{8} \left(\frac{3}{4}\right)^{n-2}$$

(4) $\{P_n\}$ について、次の確率漸化式が成立する。

$$P_0 = 1, \quad P_{n+1} = \frac{1}{2}P_n + \frac{1}{4}(1 - P_n)$$

したがって
$$P_{n+1} - \frac{1}{3} = \frac{1}{4} \left(P_n - \frac{1}{3} \right)$$

$$P_n - \frac{1}{3} = \left(P_0 - \frac{1}{3} \right) \left(\frac{1}{4} \right)^n \quad \text{よって} \quad P_n = \frac{1}{3} + \frac{2}{3} \left(\frac{1}{4} \right)^n$$

$$\boxed{4} \quad (1) \quad f(x) = \frac{4x+a}{x^2+1} \text{ より } f'(x) = \frac{-4x^2-2ax+4}{(x^2+1)^2}$$

$f(x)$ は $x = \frac{1}{2}$ で極値をとるから, $f'\left(\frac{1}{2}\right) = 0$ より

$$-4\left(\frac{1}{2}\right)^2 - 2a \cdot \frac{1}{2} + 4 = 0 \quad \text{すなわち } \mathbf{a = 3}$$

(2) (1) の結果から

$$f'(x) = \frac{-4x^2 - 6x + 4}{(x^2 + 1)^2} = -\frac{2(x+2)(2x-1)}{(x^2 + 1)^2}$$

x	$\dots$	-2	$\dots$	$\frac{1}{2}$	$\dots$
$f'(x)$	$-$	0	$+$	0	$-$
$f(x)$	$\searrow$	極小 -1	$\nearrow$	極大 4	$\searrow$

$$\lim_{x \rightarrow \pm\infty} f(x) = 0$$

よって 最大値 $f\left(\frac{1}{2}\right) = 4$, 最小値 $f(-2) = -1$

$$(3) \quad \int_0^1 f(x) dx = \int_0^1 \frac{4x}{x^2+1} dx + 3 \int_0^1 \frac{1}{x^2+1} dx$$

$$\int_0^1 \frac{4x}{x^2+1} dx = 2 \left[\log(x^2+1) \right]_0^1 = 2 \log 2$$

$$x = \tan \theta \text{ とおくと } \frac{dx}{d\theta} = \frac{1}{\cos^2 \theta} \quad \begin{array}{c|c} x & 0 \rightarrow 1 \\ \theta & 0 \rightarrow \frac{\pi}{4} \end{array}$$

$$\int_0^1 \frac{1}{x^2+1} dx = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1}{\tan^2 \theta + 1} \cdot \frac{d\theta}{\cos^2 \theta} = \int_0^{\frac{\pi}{4}} d\theta = \frac{\pi}{4}$$

$$\text{よって } \int_0^1 f(x) dx = 2 \log 2 + \frac{3\pi}{4} \quad \blacksquare$$

5 (1) $f(x) = 4x^3 - 3x + \frac{1}{2}$ より

$$f'(x) = 12x^2 - 3 = 3(2x + 1)(2x - 1)$$

x	...	$-\frac{1}{2}$	...	$\frac{1}{2}$	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	極大	↘	極小	↗

よって 極大値 $f\left(-\frac{1}{2}\right) = \frac{3}{2}$ 極小値 $f\left(\frac{1}{2}\right) = -\frac{1}{2}$

(2) $x = \cos \theta$ ($0 \leq \theta \leq \pi$) とすると $f(x)$ は

$$f(x) = 4 \cos^3 \theta - 3 \cos \theta + \frac{1}{2} = \cos 3\theta + \frac{1}{2}$$

このとき, $f(x) = 0$ とすると, $0 \leq 3\theta \leq 3\pi$ より

$$\cos 3\theta = -\frac{1}{2} \quad \text{ゆえに} \quad 3\theta = \frac{2\pi}{3}, \frac{4\pi}{3}, \frac{8\pi}{3}$$

したがって $\theta = \frac{2\pi}{9}, \frac{4\pi}{9}, \frac{8\pi}{9}$

これから, $f(x) = 0$ の解は $x = \cos \frac{2\pi}{9}, \cos \frac{4\pi}{9}, \cos \frac{8\pi}{9} \dots (*)$

よって, $k = \cos \frac{2\pi}{9}$ は方程式 $f(x) = 0$ の解である.

補足 上のグラフにおいて, $l = \cos \frac{4\pi}{9}$, $m = \cos \frac{8\pi}{9}$

(3) (*) から, k は $f(x) = 0$ の最大の解である.

$$f\left(\frac{3}{4}\right) = 4\left(\frac{3}{4}\right)^3 - 3 \cdot \frac{3}{4} + \frac{1}{2} = -\frac{1}{16}, \quad f(k) = 0$$

区間 $\frac{1}{2} < x$ において, $f(x)$ は単調増加であるから

$$f\left(\frac{3}{4}\right) < f(k) \quad \text{ゆえに} \quad \frac{3}{4} < k$$

(4) (2), (3) の結果から $\cos \frac{2\pi}{9} > \frac{3}{4}$... ①

$-1 \leq \cos x \leq 1$ であるから, $\cos x = x$ の解は, $-\frac{\pi}{2} < x < \frac{\pi}{2}$ にある.

$$g(x) = x - \cos x \quad \text{とおくと} \quad \left(-\frac{\pi}{2} < x < \frac{\pi}{2}\right)$$

$$g'(x) = 1 - \sin x > 0$$

① を利用すると

$$g\left(\frac{2\pi}{9}\right) = \frac{2\pi}{9} - \cos \frac{2\pi}{9} < \frac{2\pi}{9} - \frac{3}{4} = \frac{2}{9}\left(\pi - \frac{27}{8}\right) < \frac{2}{9}(\pi - 3.375) < 0,$$

$$g\left(\frac{\pi}{4}\right) = \frac{\pi}{4} - \cos \frac{\pi}{4} = \frac{\pi}{4} - \frac{1}{\sqrt{2}} = \frac{1}{4}(\pi - \sqrt{8}) > 0$$

$g(x) = 0$ の解 α について, $g(x)$ は単調増加であるから

$$g\left(\frac{2\pi}{9}\right) < g(\alpha) < g\left(\frac{\pi}{4}\right) \quad \text{よって} \quad \frac{2\pi}{9} < \alpha < \frac{\pi}{4}$$